

平成25年度宗像市教育委員会・福津市教育委員会・宗像地区小中学校と福岡教育大学との連携総合プラン

教育委員会・学校・福岡教育大学の連携の目的

- ①福岡教育大学には新プログラムや新教材の開発・研究の深化や学生の育成に役立てる。
- ②小中学校の現場には教師の授業力・経営力・組織力を高めると共に学校長の学校経営に役立てる。
- ③両市教育委員会には、大学と学校現場の連携を長期的なものにすることで、教育施策の推進に役立てる。

両市教育委員会・小中学校・福岡教育大学連携事業連絡協議会
5月と12月に実施

連携スケジュール


月	連携	A 小中学校の教職員研修	B 両市教育委員会の特色ある教育施策	C 小中学校における大学生のボランティア	D 小中学校及び福岡教育大学の共同研究プロジェクト	E 福岡教育大学学生の教育実習	F 福岡教育大学教職大学院の実習
4月							
5月		○大学教授などによる出前授業				○1年生の体験実習 小中学校でさまざまな学校行事に参加し教育者としての視点を体験する。	
6月							
7月		○下旬小学校教科等全員研修会	○宗像市における小中一貫教育の推進 ・7中学校区学校運営評議員会への委員としての協力 ・小中一貫教育の方向性への指導助言	○児童生徒の補習や部活動指導への学生の支援 ○特別に配慮を要する生徒への学生による支援活動 ○大学の研究室の教授等による学生ボランティアへの指導助言	○共同の教育研究・担当者会議の実施 ・各部会の実施 ・公開研究授業の実施 ・実態や実証の結果等のデータの収集 ・まとめの冊子の作成 ○実技教育支援コーディネータの養成と配置効果の科学的検証<例> ・美術教育講座による移動美術館 ・産政教育講座による地産地消や食に関する指導の協働 ・学校教育講座による「教育フィールドリサーチ」の一つとしての学校訪問等 ・英語教育講座による小中学校外国語活動の実践に関する調査等		
8月		○月上旬管理職合同研修会 ○選べる夏期講座	○福津市におけるコミュニティスクールの推進 学校運営協議会への委員としての協力 ・コミュニティスクールの方向性への指導助言				
9月		○大学教授などによる出前授業 ○小学校教科等担当委員会 ○中学校教科等研修会 授業研修会指導助言				○2年生の基礎実習 小中学校の授業を参観し協議会を体験する。	○教職大学院2年生の実習を行う。 教育実践力開発コースの実践インターシップ実習・コアポリューション実習 ・生徒指導・教育相談リーダーズコースの学校適応アセスメント実習・学校カウンセリング実習 ・学校運営リーダーコースの学校組織マネジメント実習と教育コラボレーション実習及び学校組織マネジメント実習
10月							
11月						○4年生の研究実習 ○4年生の副実習 研究テーマを持って2週間の実習を小中学校で行い教育的実践力の向上を図る。 副免許取得のための小中学校における教育実習を行う。	
12月							
1月							
2月							
3月							

連絡先

<p>福岡教育大学 811-4192 宗像市赤間文教町1-1 0940-35-1200</p> <p>宗像市教育委員会 811-3492 宗像市東郷1-1-1 0940-36-5099</p> <p>福津市教育委員会 811-3304 福津市津屋崎1-7-1 0940-52-4914</p>	<p>○各小中学校の校長・教頭・教務 ○宗像市教育委員会 ○福津市教育委員会 担当指導主事 ○福岡教育大学 連携推進課 0940-35-1238 各研究室教授等</p>	<p>○各小中学校の校長・教頭・教務 ○宗像市教育委員会 ○福津市教育委員会 担当指導主事 ○福岡教育大学 連携推進課 0940-35-1238 各研究室教授等 ○各小中学校 校長・教頭・教務</p>	<p>○各小中学校 校長・教頭・教務 ○福岡教育大学 学生就職支援室 学生支援課 0940-35-1264 各研究室教授等</p>	<p>○宗像市教育委員会 田中教育連携コーディネータ 指導主事 0940-36-5099</p> <p>○福津市教育委員会 田淵主任指導主事 0940-52-4914</p> <p>○福岡教育大学 社会連携推進室 共同プロジェクト担当者 連携推進課 0940-35-1238 ○各研究室教授等</p>	<p>○各小中学校 校長・教頭・教務 ○福岡教育大学 教育支援課実習担当 教育支援課実習支援 実習グループ 0940-35-1233 0940-35-1270</p>	<p>○宗像市教育委員会 福津市教育委員会 担当指導主事 ○福岡教育大学 教職大学院5年生 教育支援課 0940-36-6013 0940-35-1245 ○各小中学校 校長・教頭・教務</p>
--	--	--	---	--	---	---

平成25年度宗像市教育委員会・福津市教育委員会「福岡教育大学との連携による研究プロジェクト」

理科教育担当者会議
5/9実施




(1) ICT教育の実践研究

○研究内容 ICT機器を活用した先進的な授業実践を通して子どもの理解と思考を容易にすると共に基礎学力の定着と思考力表現力の育成を図る。
研究モデル校 宗像市立河東西小学校・玄海中学校
研究分担者 縄田教諭・川口教諭(河東西小学校)
廣瀬教諭(玄海中学校)
教育大学 古川教授
○研究計画(研究授業・事例や資料の収集・まとめ)
※6/3担当者会議実施 6/19・6/25研究授業実施
※実践事例集を作成し配付すること、ICT機器のマニュアル本を作成することを行う予定

研究プロジェクト名
「若年教員研修プログラムの開発と実践研究～さまざまな年齢層の教員との関わりを通して～」
今年度は(1)～(3)の3部会での研究を通して実践する。

ICT教育担当者会議
5/9実施




(2) 新学習指導要領に対応した教材開発と地域教材・人材の活用
理科教育で実践

○研究内容 物理・化学・生物・地学の4領域における新しい教材を活用した授業実践をする。授業には必ず実験観察を入れる。2学期にはICTの活用も行う予定である。
研究モデル校 宗像市立自由ヶ丘南小学校
研究分担者 瀧岡主幹教諭(自由ヶ丘南小)
守主幹教諭(赤間小学校)田代教諭(福岡南小)
福岡教育大学 伊藤教授・西野教授・坂本教授・鈴木教授・長澤教授
○研究計画(研究授業の実施・アンケート調査・まとめ・事例集作成)
※4/5研修会実施 6/13研究授業実施
※実践事例集を作成し配付すること大学教授等による模範授業を実施する等を行う予定

(3) 特別支援教育の実践研究

○研究内容 通常の学級に難を及ぼす特別に配慮を要する児童・生徒を把握するためのチェックシートを作成したり、教師として子どもに接して困っていることを情報収集したりまとめたりする。
研究分担者 高山教諭(河東西小学校)
教育大学 納富教授
○研究計画(事例紹介・チェックシートの作成・アンケート調査・まとめ)
※夏期講座で事例紹介をしたり、授業見直しチェックシートを作成したりする。
※特別支援コーディネータにアンケートを実施し教師として困っていることについてを分析しまとめる。

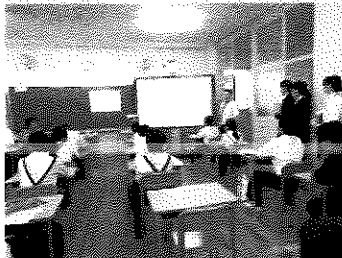
特別支援教育担当者会議
5/9実施



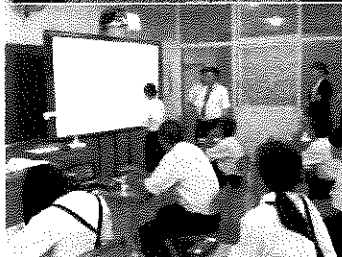
「福岡教育大学との連携による研究プロジェクト」ICT教育
 玄海中学校授業研修会(6/19)2年1組 授業者出光洋文 教諭
 社会科 地理分野 におけるICTの活用

単元名「身近な地域を調べよう」

導入
 社会科学習室には電子黒板がセットされています。授業が始まると電子黒板に生徒の目が集中しました。



前時までの振り返り
 電子黒板を活用しながら行いました。挙手した生徒が前に出てきて電子黒板に書き入れています。



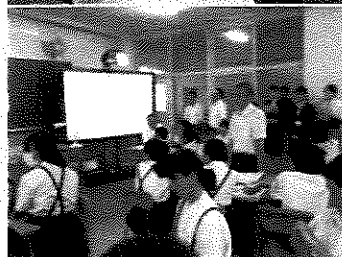
身近な地域の学習の助言者として地域の方5名がGTとして来てくださっていました。紹介のあと地域の方が挨拶されました。「こんな最新の機械が玄海中にはあるんですね。すごいですね。」は電子黒板のことです。



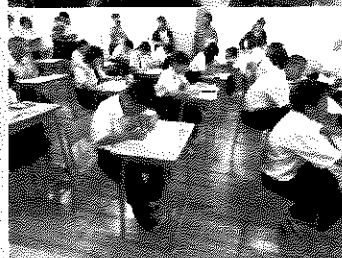
展開 交流活動
 自分たちで考えた意見と地域の方の意見を交流しながら「20年後の理想の玄海について」まとめていきます。全員が活発に意見を出し話し合っています。



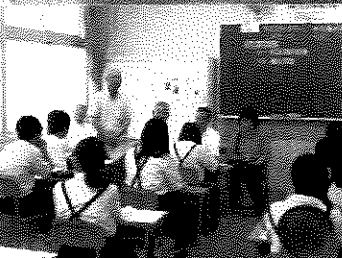
完成した班の意見を5つの班の発表者が発表していきます。



終末
 1時間を振り返り自分の学習プリントにまとめて書きます。全員が書いています。最後まで真剣に取り組んでいます。



最後に
 GTの方から今日の感想を聞きました。「玄海中の子どもたちが一生懸命勉強していることがとてもうれしかった。今後も頑張してほしい。」みんな真剣に聞いています。



共同研究者・参加者
 福岡教育大学 古川教授
 小中学校 縄田先生・川口先生(河東西小学校)
 藤先生(玄海小学校)
 宗像市教育委員会 後藤理事・羽田野指導主事・田中教育連携コーディネータ

授業協議会 自評

主眼の達成率は50%くらいだった。地域の方をGTとして授業に入っていたのは交流場面に広がりができ多面的多角的な考察ができると思ったからである。生徒は文章で表現したりまとめたりすることが苦手なので、電子黒板やGTを活用し視覚で訴えようと思った。社会科の特性の一つである資料をしっかりと使わせることが不十分だった。

河東西小学校 川口先生 縄田先生から感想及び意見

- 電子黒板を使ったときの板書をどうするか「何を残して何を残さないのか」を考える必要がある。
- 電子黒板は子どもの注目を集めるのほども有効であった。時間を計るストップウォッチの活用と時間がきたときの発音音もよかった。
- 班の発表は実物投影機で班のまとめを映しながらさせる方がよかったのでは。
- 消してもよい資料は電子黒板で、学習内容は板書で残すようにしている。

指導主事の指導・助言

生徒の様子は次の3点が表れていた。

- ①電子黒板に集中していた。
- ②教師と生徒の信頼関係ができていた。
- ③ふるさと玄海を何とかしたいという問題意識を生徒が持っていた。

今後の課題として

- ① 交流活動の最終ゴールを持つこと
- ② 9か年の交流場面を段階的に明確にすること
- ③ 10月までに徹底すべきことを徹底すること

古川教授の指導助言

◎これまでICT機器を活用した授業を参観してきた中で1、2位といえる環境であった。

- ①電子黒板と教室の黒板の位置設定が抜群だった。
- ②授業者出光教諭のICT活用スキルが高いレベルだった。
- ③社会科学習室がシンプルにしてあり他に気を取られるものがない。
- ④授業者が立ち位置をいつも気を遣って生徒の視線の邪魔にならないようにしていた。
- ⑤電子黒板だけでなく板書も上手に生かしていた。
- ⑥板書と電子黒板に映す文字の大きさ、フォントがあってとても見やすかった。
- ⑦授業中にタイマーを電子黒板にすばやく映していた。

●今後への改善点としては次のことがある。

- ①ICT機器の配置と配線に工夫が必要である。実物投影機を真ん中においた配置配線にしボタン一つで電子黒板にパワーポイントで作成した資料を出したり、実物投影機で生徒の作成したまとめやノートを映せるようにしておくことよい。
- ②生徒に原因と結果を考えさせているので、原因と結果を画面でも色分けしてやり、生徒に配付した付箋も同じ色にしてやるなどの配慮があることよい。
- ③タイマーもボタン一つで出るようにしたり大きさも調節したりできるようにしておくことよい。

タイマーは大きく

この文字と黒板の文字が同じ大きさのほうがいいです！

電子黒板と黒板の高さがそろったことが大事です！

黒板 電子黒板 教師の位置が大切です！

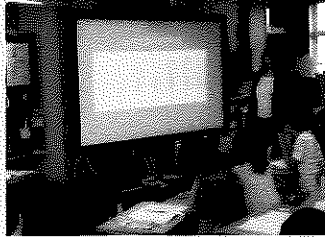
「福岡教育大学との連携による研究プロジェクト」ICT教育」
河東西小学校授業研修会(6/25)4年1組 授業者 縄田浩美 教諭
算数科 におけるICT機器の活用

単元名 「折れ線グラフ」

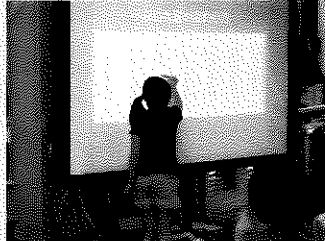
導入
教室の前面の黒板の横に電子黒板がセットされている。黒板の高さと電子黒板の高さが合わせてあって違和感や圧迫感なくセットされていた。児童は全員の視線が電子黒板に集中していた。先生の立ち位置も両黒板の邪魔にならないように意識していた。



前時までの振り返りを電子黒板でしたあと本時のめあてにつながる課題の提示を電子黒板で行う。



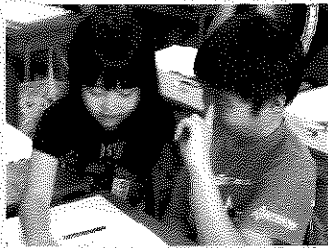
展開
めあてをつかみ、自分の考えを電子黒板上に記入しながら発表する児童



折れ線グラフは変わり方がよくわかることについて気づいたりわかったりしたことを自分考えとして書く。



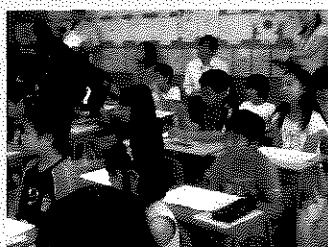
展開 交流場面
自分が考えたことを隣の席の人とペアで話し合う。どのペアも上手に話しあっています。



自分の考えを学級全体に発表しています。



終末
まとめの説明を集中して聴く児童の姿がありました。最後まで真剣にがんばりました。



共同研究者・参加者
小中学校 廣瀬先生 (玄海中学校)
花田教頭先生 (日の里中学校)
西島先生 (城山中学校)
宗像市教育委員会 後藤理事・西島指導主事
田中教育連携コーディネータ

授業協議会

自評

- 折れ線グラフの導入をICT機器を活用して実施した。
- 教え込む授業パターンが多い単元であるが、変わり方の変化を気づかせ理解させる授業展開にした。
- 棒グラフを想起させて折れ線グラフへ導くようにした。
- ただし理科の授業ですでに折れ線グラフを学習しているのがどのように影響するかが問題であった。
- ICT機器は電子黒板のアクティブインスパイアをつかった。
- パワーポイントとデジタル教科書を活用した。

質疑応答

①棒グラフはどのように取り込んだのか？

(A)カメラで取り込んだ。

白い線を消したかったがうまく消せなかった。

②たくさんの機能を見せてもらって勉強になった。電子黒板を活用したときのノートのとらせ方をどのようにしているのかを教えてください。

(A)めあて・気づいたこと・まとめをノートに取らせている。最低限必要なことを書かせるようにしている。

③電子黒板的にはよかったと思うが、今日のねらいの折れ線グラフのよさをどれくらいの子どもが気づいて理解したのかについてはどうだったか。

(A)その点はアンケートをとればよかったと考えている。

④電子黒板は教室やその日の天気や太陽光のあたり方で見やすさが変わってくる。

今日の天候は電子黒板日よりだった。普段どのようにしているか。遮光カーテンを教室に入れてもらうとどんな日でも大丈夫であるが。

(A)青色と黄色のコントラストは見やすいと言われていたが映してみないとわからない。今回は映してみても見やすかった色に決めた。

西島指導主事から

◎電子黒板はそれが目的ではなく手だての一つとして使っていただきたい。子どもの理解を深めるための工夫になればいいのではと思う。

◎教育大学の古川教授が急遽来れなくなったが、このように校内研の全研の中で資料取りをさせていただいたので、福岡教育大学の古川先生にビデオを見ていただくようにする。

田中から

◎電子黒板と黒板の位置・高さ・先生の立ち位置が違和感がなく落ち着いた環境になっていた。

◎電子黒板とデジタル教科書と手作りのパワーポイントを上手に使いこなしてしかも黒板の板書も構造的で見やすく有効であった。

◎子どもが思考するときに必要なものは黒板、消えてもよいものは電子黒板とし、最後に板書として残ったものが子どものノートになればいい。

◎棒グラフを折れ線グラフにする作業は全員にさせたかった。その作業を通して理解が深まるので。

◎考えをまとめるときの制限時間を電子黒板にタイマーで映したのとはとてもよかった。もう少しタイマーを大きく映したら子どもの意識も更に高まったのではないだろうか。



授業の最後の黒板の板書が子どものノートと全く同じであった。計画的な板書であった。

